

### 脳脊髄液減少症患者の3分の1

## 有効な治療受けられず

交通事故やスポーツなどの衝撃をきっかけに、激しい頭痛やめまいに襲われる「脳脊髄液減少症」患者の3分の1が、症状改善に有効な治療を受けられないでいる実態が4日、患者団体「脳脊髄液減少症」患者の調査でわかった。保険適用外で費用が高額なうえ、治療してくれる医療機関が少ないことが理由という。調査は、NPO法人「脳

脊髄液減少症患者と家族の救済を考える会」が今年7～8月、患者200人を対象に実施した。脳脊髄液減少症は、衝撃

で脳を保護する硬膜が破れ、脳脊髄液が漏れることになって起こるとされる。自分の血液を注入し、脳脊髄液が漏れ出す箇所をささぐ「ブラッドパッチ治療」が有効とされるが、調査結果によると、この治療を受けていない人が62人いた。保険が適用されないため30万～50万円かかる治療費が工面できない人や、限られた医療機関に患者が集中して順番待ちとなっている人がいるためだという。

梅紀久代理事長は「医師を含め周囲の理解のなさから、診断まで時間がかかることも多い。耐えきれず自殺した患者もいる。保険適用を認め、多くの患者を救ってほしい」と話している。